

5. 地域別構想

5. 地域別構想

5-1. 地域の区分と構成





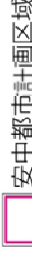

都市整備構想を受け、市内の各地域の状況・特性に即して、地域ごとの都市づくりの目標とまちづくりの施策・活動の指針となる「地域別構想」を、市域を都市拠点・地域生活拠点を中心とした3つの地域『安中・秋間地域』『原市・磯部地域』『松井田地域』について定めます。

この地域別構想の計画区域である3つの「地域」は、市内の行政区のまとまりである14の「地区」を、4地区、4地区、6地区に区分して構成しています。

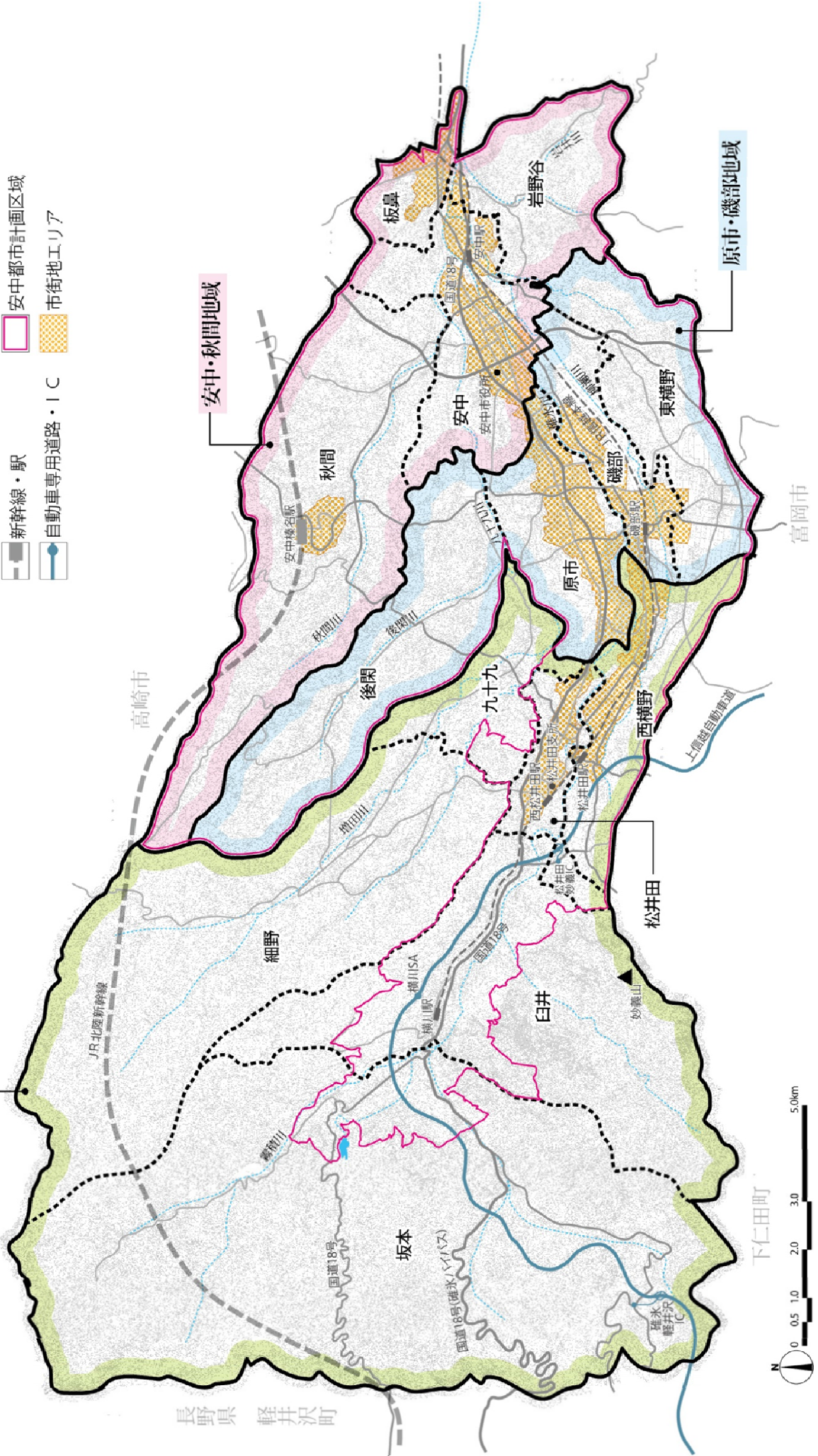
◆地域別構想3地域と14行政区及び住居表示区域との対応

地域別構想地域	行政区	地域	備考
安中・秋間 地域	安中 地区	中宿、安中、高別当、古屋、小俣	全域都市計画区域内
	岩野谷 地区	岩井、野殿、大谷	〃
	板鼻 地区	板鼻	〃
	秋間 地区	西上秋間、東上秋間、中秋間、下秋間、秋間みのりが丘	〃
原市・磯部 地域	原市 地区	原市、郷原、嶺、築瀬	〃
	磯部 地区	上磯部、磯部、西上磯部、東上磯部、下磯部、大竹	〃
	東横野 地区	中野谷、鷲宮、上間仁田、下間仁田	〃
	後閑 地区	下後閑、中後閑、上後閑	〃
松井田 地域	松井田 地区	新堀、松井田	〃
	西横野 地区	人見、二軒在家、八城、行田	〃
	臼井 地区	横川、五料	両地域ともに一部都市計画区域外
	坂本 地区	峠、坂本、原、入山、北野牧、西野牧	坂本・原地域については一部都市計画区域外、その他の地域については全域都市計画区域外
	九十九 地区	下増田、高梨子、国衙、小日向	高梨子・国衙地域については一部都市計画区域外、その他の地域については全域都市計画区域外
	細野 地区	土塩、新井、上増田	全域都市計画区域外

◆地域別構想地域区分

-  鉄道・駅
-  新幹線・駅
-  自動車専用道路・I.C.
-  幹線道路
-  安中市計画区域
-  市街地エリア

松井田地域



下仁田町



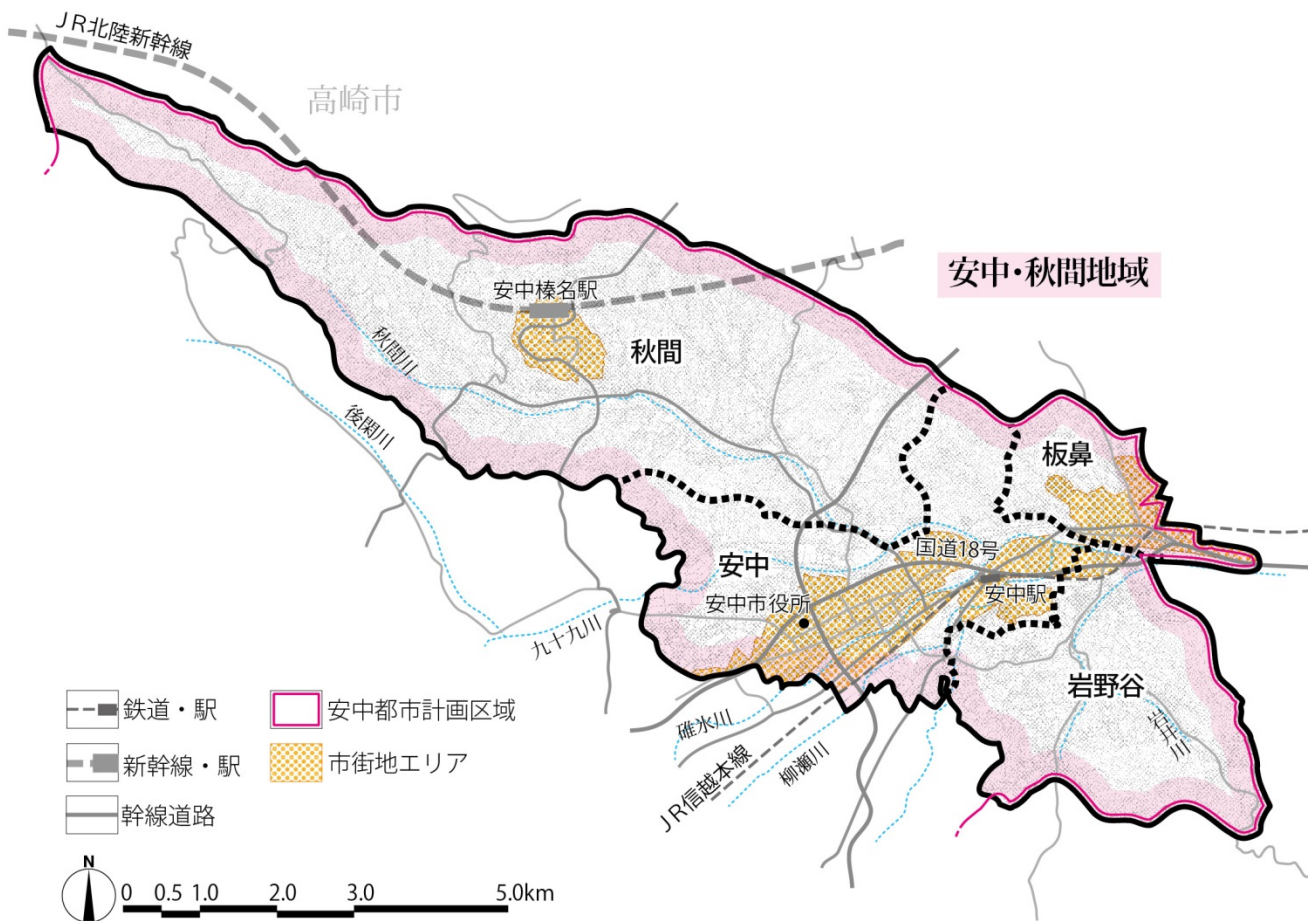
5-2. 安中・秋間地域

1. 地域の位置と構成

安中・秋間地域は、市域東部の碓氷川下流部及びその支流である九十九川、秋間川、岩井川の流域の安中地区、岩野谷地区、板鼻地区、秋間地区の4地区から成る地域です。

地域は全域が都市計画区域であり、国道18号沿道と、JR北陸新幹線安中榛名駅周辺に市街地が形成され、用途地域が指定されています。

◆安中・秋間地域の位置と構成



2. 地域内の各地区の概況と主なまちづくりの課題

(1) 安中地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

安中地区は、旧中山道安中宿を中心に形成され、安中市の重要な都市機能が集積した都市拠点の市街地を擁する地区です。

旧中山道と並行して地区の中央部を東西方向に国道18号が通り、東側は板鼻地区を経て高崎方面、西側は原市地区、松井田地区を経て長野県軽井沢方面と連絡し、大量の広域自動車交通の通過があります。

地区南部の碓氷川右岸にはJR信越本線が通り、東部の国道18号と県道吉井安中線の交差点付近には都市の公共交通の拠点である安中駅があります。

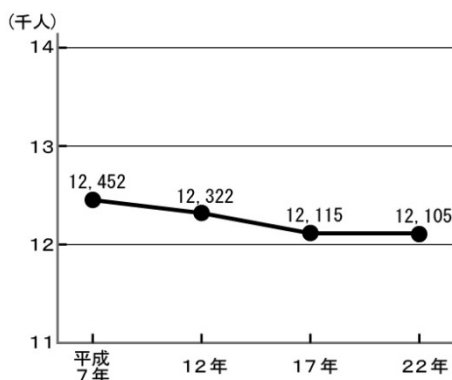
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、昭和60年代から減少傾向にありましたが平成17年以降はその減少に歯止めがかかり、平成22年国勢調査人口は、12,105人と市内14地区で最も大きな規模を維持しています。

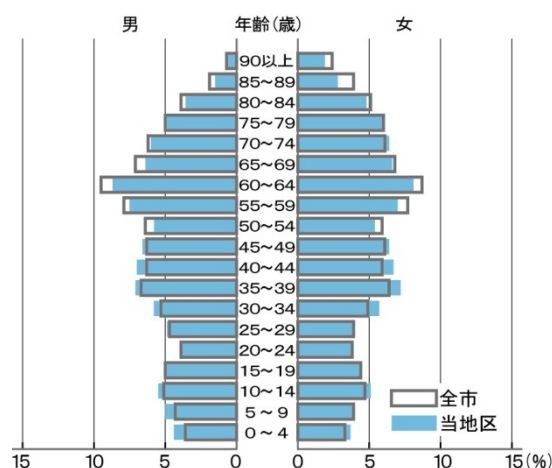
世帯数は、一貫して増加を続け、平均世帯構成人員数は、平成22年には、2.67人/世帯まで減少しています。

人口年齢構成は、他地区に比べて老年人口の比率が少なく（平成22年：25.9%）、年少人口が多く、比較的若い社会構造が維持されています。

◆安中地区の人口の推移



◆安中地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

碓氷川と九十九川に挟まれた国道18号・旧中山道の沿道には、市役所や文化センターなどの都市の拠点となる機能が立地した中心市街地が形成され、武家長屋や旧安中藩群奉行役宅、旧碓氷群役所などの歴史的建造物も数多く残されています。

平成7年度国勢調査までは、この市街地の大部分が40人/h a以上の人口密度を有する人口集中地区(DID)でしたが、その後の人口減少により密度は低下し、空き家や施設跡地の空き地が見られるようになりました。

国道18号沿道には沿道商業・サービス施設が数多く立地し、広域交通の沿道利用と地域の生活サービスに供されています。

地区南東部のJR信越本線安中駅南側の丘陵斜面は、昭和初期から操業を続ける一団の工業用地です。

国道18号北側と地区南部の碓氷川とJR信越本線との間は、小規模な開発と住宅のバラ建ちにより市街化が進行した住居系の市街地であり、それに隣接する農村集落地の一部では農地の転用と耕作放棄地化が見られます。

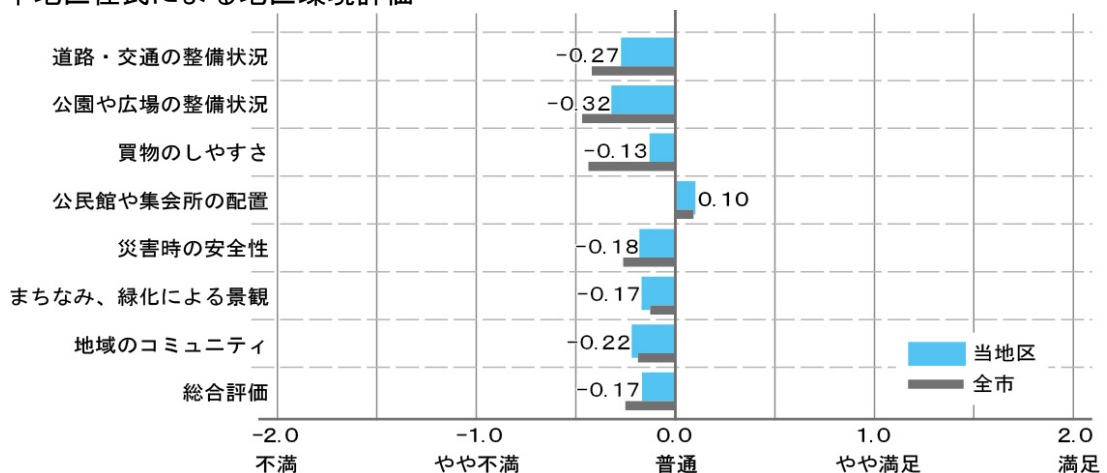
地区北部の九十九川沿岸と南部の柳瀬川沿岸は沿岸平野部の田を主とする農地からなる田園・集落エリアであり、後背の丘陵地は山林自然環境エリアに連なる山林やゴルフ場となっています。

【まちづくりに係る住民意向】

安中地区の住民による地区環境の評価は、全市の平均と同様に満足より不満の方が高い項目が大部分を占めますが、交通や買い物のしやすさなどの都市的の利便性については他地区より不満の度合は低く、街並み景観やコミュニティについては若干不満が強くなっています。

また、各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、歴史的建造物を活用する広域観光の振興、空き地・空き家や耕作放棄地の適正管理とまちづくりへの活用、歩行空間の整備や交通安全性の向上について意見が多くありました。

◆安中地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 都市拠点地区としての広域連携、市内各地域との連絡の強化
- 都市拠点地区の重要な公共公益施設の機能更新、再編再配置
- まちなか居住、観光交流と連動する中心市街地の再整備、活性化
- 国道18号・西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の沿道土地利用の整序、計画的沿道街区形成
- 空き地・空き家、施設跡地の適正管理と有効利用
- 市街地外縁部における生活道路などの基盤施設の系統的な整備
- 河川や鉄道を越えて南北方向に地域を連絡する幹線道路の整備
- 都市の拠点駅である安中駅の周辺市街地、地域との連絡機能の強化
- 市街地建築物の耐震化・不燃化、道路・橋梁の耐震化
- 旧中山道安中宿・安中城址周辺の歴史的街並み景観の保全整備、広域交流資源としての活用
- 山並みの眺望、河川沿岸の自然環境・景観の保全

(2) 岩野谷地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

岩野谷地区は、市域の東端にあり東側を高崎市、南側を富岡市と接する地区であり、北側を流れる碓氷川の支流の岩井川流域の田園集落地の地区です。

地区北部には、国道18号とJR信越本線が通り、東西方向の国道18号と南北に交差し岩井川沿いに走る県道前橋安中富岡線と吉井安中線が地区の交通の骨格を形成しています。

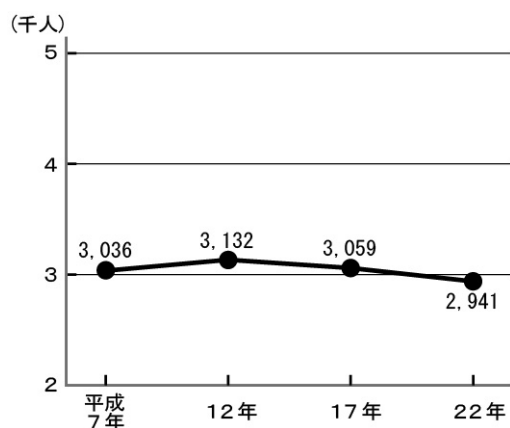
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、平成12年以降、次第に減少している傾向にあり、平成22年国勢調査人口は2,941人となっています。

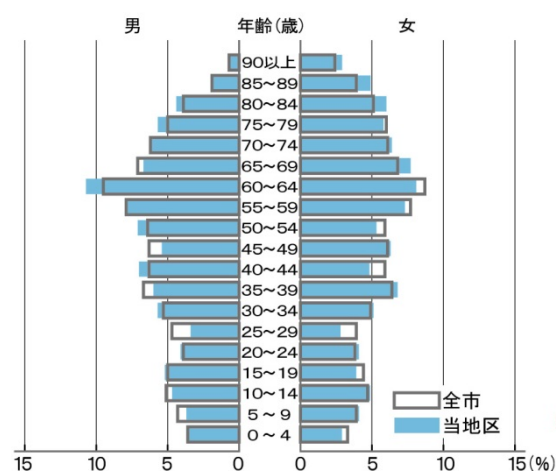
世帯数は、増加を続け、平均世帯構成人員数は、平成22年には、2.52人/世帯まで減少しています。

人口年齢構成は、他地区に比べて若干老年人口の比率が大きく(平成22年:29.7%)、比較的高齢化の速度が速い社会構造となっています。

◆ 岩野谷地区の人口の推移



◆ 岩野谷地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

地区北部の国道18号沿道には、比較的規模の大きい商業施設や沿道型の流通・業務施設が立地しています。

JR信越本線の南側沿線には田を主とする一団の農地が、南部の丘陵上部には桑畑を主とする農地があり、県道沿道の集落地と合わせて、田園集落地を形成しています。

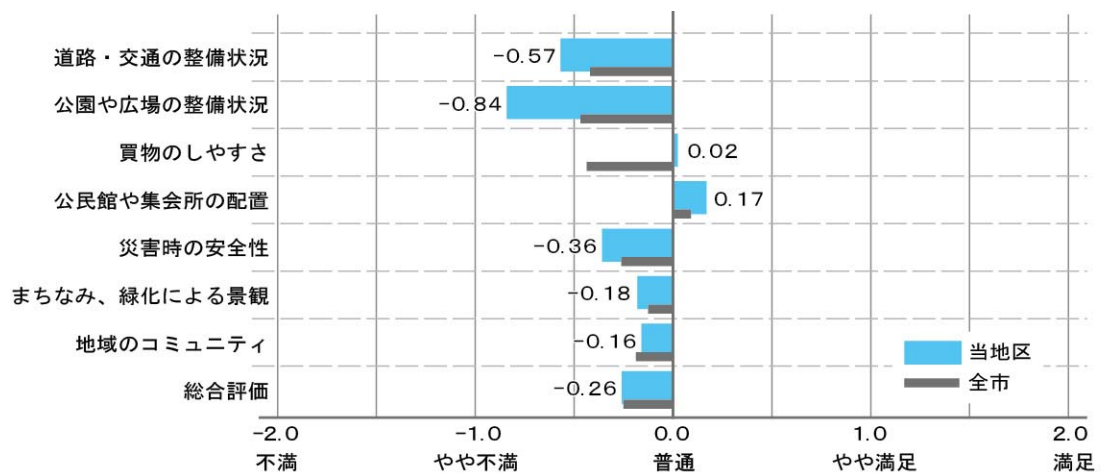
地区南部、東部は他市にまたがる山林自然環境ゾーンですが、桑畑と山林の一部に土地利用転換の動向と自然環境・農業生産環境の荒廃がみられます。

【まちづくりに係る住民意向】

岩野谷地区の住民による地区環境の評価は、全市の平均と同様に満足より不満の方が高い項目が大部分を占めますが、買い物のしやすさや公民館や集会所の配置については他地区より不満の度合は低く、公園や広場の整備について、地区の地形の制約もあってか、不満の度合が特に強くなっています。

また、各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、災害時の地形の高低差や河川及びその浸水・洪水などの分断要素に対応する避難路・救援路の確保や、小規模な自主防災組織の防災拠点となりえる公園や広場の整備への意見が数多く寄せられました。

◆岩野谷地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 国道18号の沿道土地利用の整序
- 河川や地形の高低差を越えて地域内の集落地と拠点地区市街地を円滑に連絡する交通路の整備、災害時の経路確保
- 自主防災組織の防災拠点となる身近な公園・緑地・広場の配置整備
- 耕作放棄地、荒廃山林の適正管理と農地・山林の有効利用の促進

(3) 板鼻地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

板鼻地区は、碓氷川の市内最下流部左岸で東側・北側を高崎市と接する地区であり、地区南東部は、国道18号と複数の県道、JR信越本線が碓氷川左岸に集中して並行する交通回廊を形成しています。

地区南側の安中地区市街地や岩野谷地区とは、碓氷川により隔てられており鷹之巣橋、石井橋などの橋梁により連絡しています。

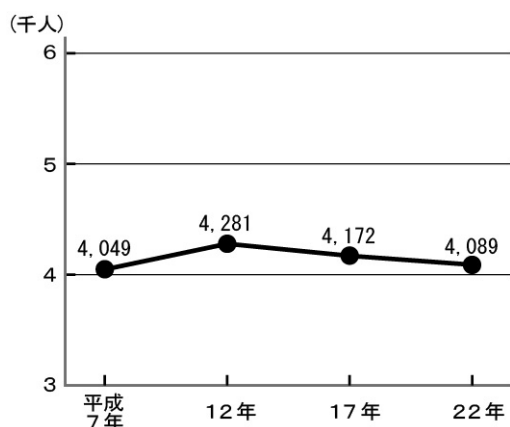
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、平成12年をピークとして減少に転じ、以降、次第に減少している傾向にあり、平成22年国勢調査人口は、4,089人です。

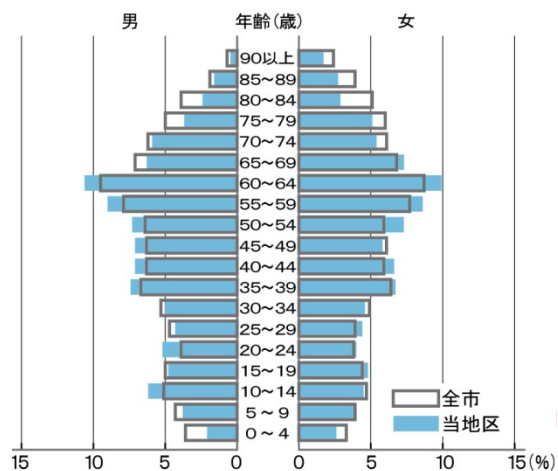
世帯数は、一貫して増加を続け、平均世帯構成人員数は、平成22年には、2.71人/世帯まで減少しています。

人口年齢構成は、他地区に比べて年少人口・老年人口の比率が少なく、生産年齢人口が多い(平成22年:66.0%)構成となっていますが、団塊の世代が多く、今後、急速な高齢化が予測されます。

◆板鼻地区の人口の推移



◆板鼻地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

碓氷川沿岸の平坦地は、既成市街地となっており、旧中山道沿道には近隣商業・サービス施設が集積し、板鼻宿の歴史的街並みが残されています。

国道18号沿道には流通業務施設が集積しています。

地区東部の大谷津川に沿った県道箕郷板鼻線沿道と西部の丘陵上部は小規模な開発により、低層戸建ての住宅地が形成されています。

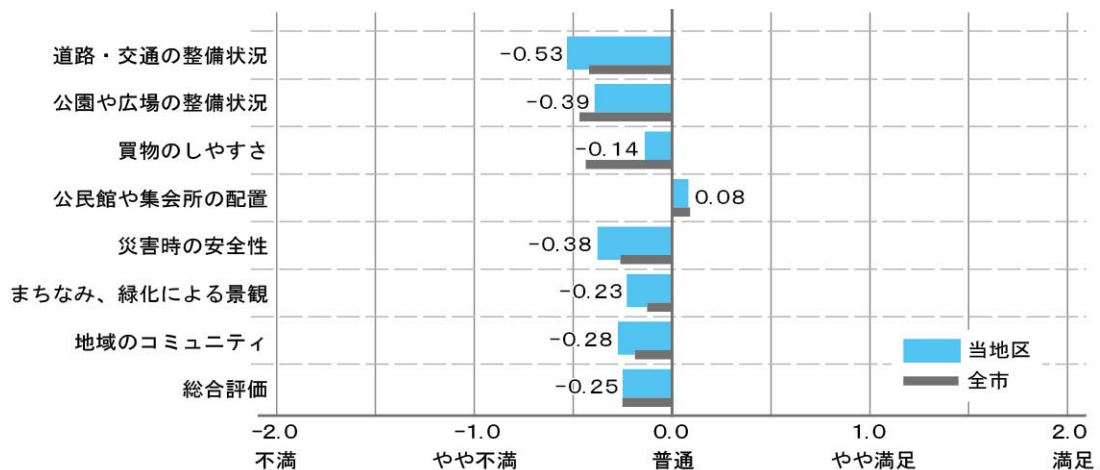
大谷津川上流部は、高崎市域に連なる大規模な農地が開けた田園集落地であり、地区北西部の秋間地区に連なる山林には、「天神山自然の森」が設けられ、市民の自然とのふれあいの場となっています。

【まちづくりに係る住民意向】

板鼻地区の住民による地区環境の評価は、全市の平均と同様に満足より不満の方が多い項目が大部分を占めますが、買い物のしやすさについては他地区より不満の割合は低く、道路・交通の整備状況や災害時の安全性について不満の割合が強いことが特徴的です。

また、各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、地域社会の高齢化に対応した空き家対策や鉄道利用の利便性の向上と浸水の恐れのある災害時の避難場所や避難路の確保について多くの意見がありました。

◆板鼻地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 板鼻商店街の地区の生活サービス機能の更新、活性化
- 板鼻宿の歴史的街並みと身近な親水空間としての板鼻川の保全、活用
- 空き地・空き家、施設跡地の適正管理と有効利用
- 河川や地形の高低差を越えて南北方向に地域を連絡する交通路の整備
- 鉄道交通の利便性の向上
- 市街地建築物の耐震化・不燃化、道路・橋梁の耐震化
- 山並みの眺望、河川沿岸の自然環境・景観の保全

(4) 秋間地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

秋間地区は、市域北東部で北側を高崎市と接する地区であり、城下橋付近で九十九川と合流する秋間川の流域の地区です。

秋間川に沿った県道安中榛名湖線、恵宝沢原貝戸線が地区の交通の骨格を形成し、地区と安中地区の都市拠点地区を連絡しています。

地区北部にはJR北陸新幹線安中榛名駅があり、駅前を通る主要地方道下仁田安中倉淵線が、安中榛名駅周辺に計画的に開発整備された秋間みのりが丘の市街地と南側の原市・磯部地域、北側の高崎市榛名地域を連絡しています。

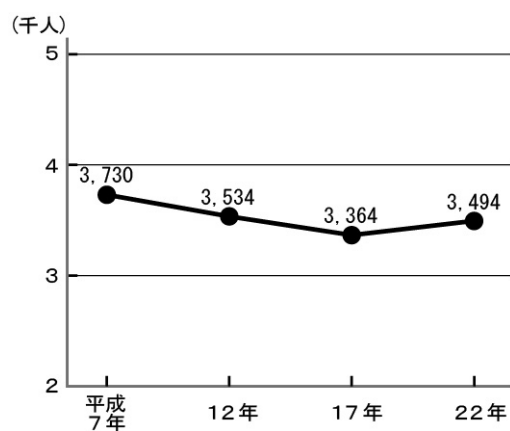
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、平成17年まで漸減傾向にありましたが平成17年以降は増加に転じ、平成22年国勢調査人口は、3,494人となっています。

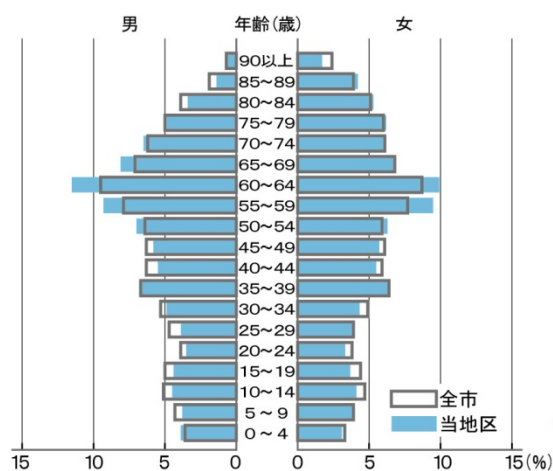
世帯数は、一貫して増加を続け、平均世帯構成人員数は、平成22年には、2.52人/世帯まで減少しています。

人口年齢構成は、他地区に比べて団塊の世代が多いため、生産年齢人口の比率が大きく(平成22年:60.5%)なっていますが、今後は、急速な高齢化が予測されます。

◆秋間地区の人口の推移



◆秋間地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

地区の市街地は、安中榛名駅周辺の秋間みのりが丘に計画的に開発整備され、駅隣接街区は商業業務地、その他は低層戸建て住宅として土地利用される計画です。

その他の区域は、河川沿岸の農地と集落地からなる田園集落地と丘陵斜面及び上部の山林であり、丘陵上部には4つのゴルフ場があります。

また、地区西部の丘陵上部には観梅公園が整備され、周辺の農地とともに秋間梅林の観光交流ゾーンを形成しています。

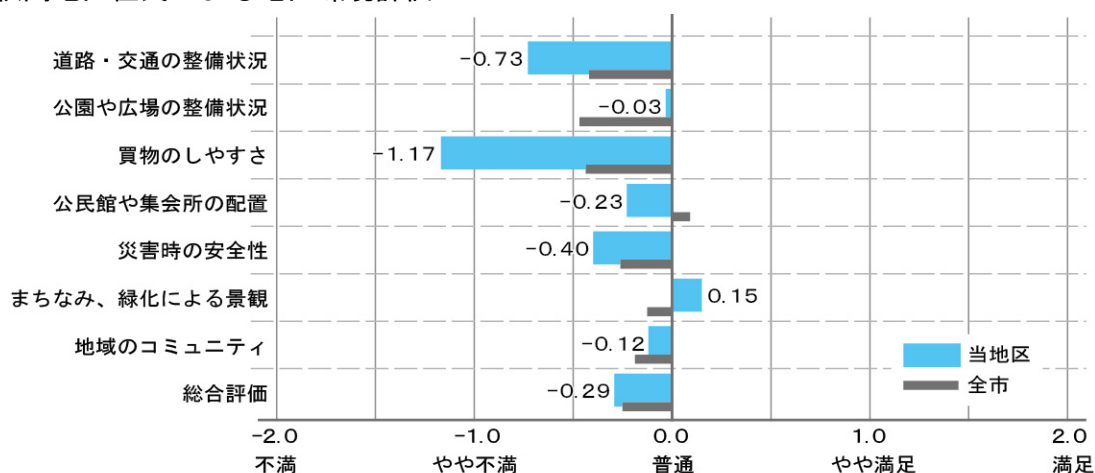
秋間川最上流の山林は、松井田地域の上信越高原国立公園地域に連なる国有林の区域です。

【まちづくりに係る住民意向】

秋間地区の住民による地区環境の評価は、全市の平均と同様に満足より不満の方が多い項目が過半を占めますが、公園や広場の整備状況と街並み・緑化による景観については、満足と不満がほぼ拮抗しています。また、代わって、道路・交通の整備状況と買い物のしやすさについての不満の度合いが特に強いことが特徴的です。

また各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、日用品を購入できる店舗の立地誘導や生活交通に供するバスの運行の在り方への要望、ゴミの不法投棄や生活雑排水による環境の汚染の問題への意見が多くありました。

◆秋間地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 秋間みのりが丘の市街地及び地域の集落地と J R 信越本線各駅周辺市街地との連絡機能の強化
- 安中榛名駅の西毛地域の玄関口としての機能拡充
- 地域の生活を支える身近な商業・サービス施設の立地誘導
- 河川や地形の高低差を越えて地域内の集落地と拠点地区市街地を円滑に連絡する交通路の整備、災害時の経路確保
- 秋間梅林やゴルフ場の広域観光・レクリエーションの場としての機能拡充、地域活性化の資源としての活用
- 秋間みのりが丘の市街地の良好な街並み景観と眺望の形成、保全

3. 地域別構想「安中・秋間地域」

(1) 地域の将来像とまちづくりの方向性

① まちづくりの目標

～ 広域に開かれ、人々が生き活きと行き交うまち ～

② まちづくりの基本方針

<都市拠点地区と広域圏及び市内各地域との交通連絡機能の強化>

安中市の中心拠点地区、西毛広域圏の拠点地区である「市役所・安中駅周辺地区」と高崎市・前橋市・富岡市などの広域圏及び市内各地域を連絡する広域幹線道路や鉄道などの交通連絡機能を拡充し、都市と広域圏との連携を強化します。

<幹線道路整備と連動し跡地を活用する都市拠点機能の更新・再配置>

都市拠点地区では、幹線道路整備と連動して計画的に整備される沿道街区・沿道敷地や、施設跡地を活用して、拠点機能を有する公共公益施設や商業業務施設、公営住宅の更新整備、集約再配置を進めます。

<住宅市街地の基盤施設の拡充、居住環境の改善>

住宅市街地の系統的な基盤施設の整備・改善を進めるとともに、地域社会の高齢化に対応し、都市拠点地区の市街地の空き地・空き家の適正管理・活用や公営住宅の集約再配置により、生活利便性の高いまちなか居住を促進します。

<旧中山道沿道の歴史的街並み景観の保全、活用、交流空間形成整備>

旧中山道沿道や安中城址周辺の歴史的街並みや遺構を保全し、整え、訪れる人々と地域社会、歴史文化とふれあい、交流することのできる交流空間を整備し、他都市・他地域とも連携した広域観光交流ゾーンの形成を図ります。

<河川など分断要因を越える市街地連絡機能の確保・強化>

市街地・集落地の生活交通を円滑化かつ快適化し、災害時にも避難・救援の経路が確保されるよう、洪水の恐れのある河川や、沿岸低地と丘陵上部の大きな高低差、鉄道などの東西方向に連なる地域の分断要因を乗り越える道路や交通機関などの交通連絡機能の強化を図ります。

③ 将来地域構造

《土地利用構成の大枠》

市街地エリア

碓氷川下流部沿岸の国道18号・旧中山道の沿道とJR北陸新幹線安中榛名駅周辺を市街地エリアとし、計画的な市街地整備と都市的土地利用の誘導を図ります。

田園集落エリア

碓氷川の支流の岩井川、柳瀬川、九十九川、秋間川の沿岸の農地、里山とそれに介在する集落地からなる区域を田園集落エリアとし、自然環境・農業生産環境との調和を図りつつ、集落地の生活環境の改善整備を進め、コミュニティの活力の維持増進を図ります。

山林自然環境エリア

秋間川の最上流部の国有林を主とする区域は、松井田地域の信越高原国立公園地域に連なる山林自然環境エリアとなっており、山林の土地利用・環境の保全を図ります。

《拠点地区の配置》

都市拠点

安中駅周辺から安中市役所周辺までの国道18号とJR信越本線に挟まれた「市役所・安中駅周辺地区」を都市拠点地区と位置づけ、広域圏及び市内各地域との交通連絡を強化しつつ、重要な公共公益施設、高次の都市機能の集積を進めます。

産業拠点

安中駅南側の一団の工業用地を、地域に身近な職場を提供している産業拠点と位置づけ、通勤や広域的な物流のための交通の強化と産業生産機能の維持増進を図ります。

広域観光交流ゾーン

安中地区の旧中山道沿道の史跡や歴史的建造物を有する「安中宿・安中城址周辺ゾーン」を広域観光交流ゾーンとし、歴史的街並み景観の保全・整備、沿道のポケットパーク・駐車場の整備や道路空間デザインなどにより観光交流空間の形成を図り、市内外の他の観光交流ゾーンとの連携を強化して広域交流を促進します。

観梅公園周辺の「秋間梅林ゾーン」を、地域の山林自然環境・農業生産環境と触れ合うことのできる広域観光交流ゾーンとし、アクセス道路の整備や周辺山林・農地の保全・活用などにより、広域交流の機能の拡充を図ります。

(2) 地域の整備、開発及び保全の方針

① 土地利用の配置・誘導の方針

◆ 低層住宅地

- 秋間みのりが丘や板鼻地区の古城住宅団地などの計画的に開発整備された戸建て住宅地については、低層住宅地と位置づけ、周辺環境と調和した緑豊かでゆとりのある良好な住環境を保全します。
- 安中地区の安中城址周辺や碓氷川沿岸の歴史建造物や由緒ある寺社が残り公共公益施設の集積する地区については、低層で低密度な土地利用を維持し、広域観光交流の資源となる環境、景観・眺望の保全を図ります。
- 板鼻地区東部などの市街地外縁部の公共下水道計画区域内については、住宅市街地としての系統的な基盤整備と計画的土地利用を図ります。

◆ 中低層住宅地

- 遠丸団地などの公営住宅団地周辺や幹線道路沿道などの中低層の集合住宅、小規模な店舗・作業所が戸建て住宅と併存して一定の建て込みが見られる住宅地については、中低層住宅地と位置づけ、道路交通の利便性を活かした中密度の住宅地の土地利用を誘導します。

◆ 複合市街地

- 都市拠点地区内や幹線道路沿道において、中小規模の店舗、業務施設、作業所が住宅と併存する既成市街地については、複合市街地と位置づけ、既存の宅地の有効利用・高度利用により、まちなか居住のための集合住宅や生活サービス施設の整備、機能更新を誘導します。
- 秋間みのりが丘の外周部の幹線道路沿道については、中小規模の店舗や中低層の集合住宅の立地を許容する複合市街地とします。

◆ 拠点商業業務地

- 国道18号と西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の2つの広域交通軸が交差する市役所周辺については、都市に枢要な公共公益施設が集中立地する拠点商業業務地であり、西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）などの幹線道路の整備と連動する沿道の土地利用更新、公共公益施設の集約再編、跡地の有効利用、既存施設建築物の更新・共同化などにより、商業業務機能の集約、充実を進めます。

◆ 近隣商業地

- 旧中山道の宿場町の「安中宿」「板鼻宿」及び安中駅周辺については、近隣商業地に位置づけ、空き地・空き家の活用などにより観光商業機能を含めた店舗の更新、まちなか居住のための都市型住宅への土地利用転換などを促進し、地域の生活拠点としての機能の増進・再生と広域観光交流拠点としての再整備を進めます。
- 西毛地域の玄関口である安中榛名駅周辺を秋間地区の近隣生活拠点となる近隣商業地に位置づけ、商業サービス機能の立地を誘導します。

◆ 沿道サービス業務地

- 国道18号沿道については、沿道サービス業務地と位置づけ、大量通過交通を対象とした沿道サービス施設と地域生活サービスの一翼を担う商業施設の秩序ある立地と沿道環境・景観の整序を進めます。
- 国道18号と交差する西毛広域幹線道路(都市計画道路3・6・10南北中央幹線)の整備に伴い、都市拠点地区内の碓氷川右岸に計画的に整備される沿道街区については、周辺土地利用との調和や地域の既存商業との融和を図ることを前提として、地域の生活利便と広域的な道路沿道サービスに供される商業・サービス機能、流通・業務機能の計画的な立地を誘導します。

◆ 工業・流通業務地

- 安中駅南側の一団の既存大規模工業用地については、工業・流通業務地と位置づけ、周辺の交通機能の拡充などにより、既存工業生産機能の増進を図ります。

◆ 田園集落地

- 碓氷川・岩井川・九十九川・秋間川の沿岸の集落地と介在する農地については、無秩序な宅地利用を抑制し、農地の適正な管理・利用を促進して、農業生産環境、集落の生活環境の保全・改善を図ります。

◆ 自然活用保全地

- 田園集落地の後背の丘陵斜面や河岸段丘面に残され、良好な景観を形成している斜面緑地については、地域制緑地の指定などにより、その環境・景観の保全、活用を図ります。
- 広域の林間レクリエーションの場である丘陵上部のゴルフ場や、森林環境・文化の体験学習の場である「天神山自然の森」、広域観光交流ゾーンの「秋間梅林ゾーン」については、周辺山林を含めた環境の保全を図るとともに、アクセス機能の拡充などにより利用を促進し、レクリエーション機能・学習機能を増進します。

② 市街地整備の方針

＜都市拠点地区における都市機能の集約再編、機能更新＞

「市役所・安中駅周辺地区」の都市拠点地区については、施設跡地の活用などにより、重要な公共公益施設の集約再編、機能更新を推進します。併せて、周辺地域や交通拠点となる安中駅周辺との間を連絡する幹線道路や、地域の市民と広域から訪れる人々の交流の場となる街路や広場などの公共的空間を、誰もが使いやすいユニバーサルデザインにより整備します。

都市拠点地区を南北に貫通して整備される西毛広域幹線道路(都市計画道路3・6・10南北中央幹線)沿道については、道路整備と連動して、適正な沿道街区・沿道敷地の形成・整序を進め、都市機能の更新を図ります。

碓氷川右岸で都市拠点地区の一角を構成する西毛広域幹線道路(都市計画道路3・6・10南北中央幹線)と都市計画道路3・4・2中宿水口線の交差点については、計画的な沿道街区の形成整備により、周辺土地利用や既存商業機能との融和を前提として、地域の生活利便と広域的な道路沿道サービスに供される商業・サービス機能、流通・業務機能の立地を誘導します。

＜地域の歴史的資源を活かす広域観光交流ゾーンの整備＞

旧中山道安中宿や安中城址周辺の広域観光交流ゾーンに位置づけられた市街地については、景観計画の策定・運用などにより、歴史的街並み景観や遺構の保全・整備を促進するとともに、空き地・空き家の活用などによる沿道のポケットパーク・駐車場の整備や道路空間デザインなどにより、特色ある観光交流空間を形成していきます。

＜地区の特性に合わせた手法による着実に系統的な基盤整備の促進＞

道路などの基盤施設の整備が不十分なまま、既に住宅が建て込んでいる市街地縁辺部の住宅地については、主要な生活道路の狭あい区間の拡幅整備や公共下水道の整備などにより、市街地の基盤を整え、居住環境の改善、防災性の向上を図ります。

一団の農地が残る新市街地の地区については、面的基盤整備による新規の住宅宅地の開発整備が適当な区域について土地区画整理事業の施行を検討するとともに、既に住宅の建て込みが見られる区域や緑地の保全・活用が必要な区域などの面的整備事業が困難で不適当な区域について地区計画制度の適用などにより、骨格的基盤施設の整備と計画的な土地利用誘導を図るなど、地区の特性に合わせて多様な整備手法を検討実施し、段階的かつ着実に市街地整備を進めます。

＜公営住宅団地の集約再編、住戸の移転建替えの推進＞

「安中市市営住宅等長寿命化計画」に基づき、市街地郊外や縁辺部に点在する老朽化した小規模住宅団地の統廃合・用途廃止と、生活利便性の高い拠点地区市街地への集約再編、住棟・住戸の移転建替えを推進します。

移転建替えにあたっては、高齢者をはじめ誰もが住みやすい住棟・住戸とするとともに居住機能に加えて福祉機能、生活利便機能も備えた複合的な施設を想定し、土地の高度利用を視野に入れて整備計画を検討します。また、団地跡地を広場や公共的駐車場などの市街地整備に資する用地として活用します。

③ 自然・農業環境の保全・活用の方針

＜市街地に介在する身近な自然環境の保全・活用＞

市街地に隣接する身近な自然環境である碓氷川・九十九川の河川敷については、その環境の管理・保全を図るとともに、水に親しむことのできる緑地、広場、歩行空間・自転車通行空間としての活用を促進します。

河川河岸段丘の斜面緑地、田園集落地の里山の緑地については、緑地保全地区などの地域制緑地の指定を検討し、環境・景観の保全を図ります。

市街地近傍にある一団の優良農地を含む田園集落地の緑豊かな環境・景観については、これらと調和しない土地利用・建築を制限する特定用途制限地域の指定などにより保全を図ります。

＜学習・交流の場としての山林・農地の保全、活用＞

「天神山自然の森」や、広域観光交流ゾーンである「秋間梅林ゾーン」では、アクセス道路の整備などにより体験学習、広域観光交流の機能の拡充を図るとともに、学習・交流の場として周辺の山林・農地の活用を促進します。

④ 道路整備の方針

■ 幹線道路の整備 -----

<国道18号の改良整備>

国道18号については、交通の円滑化、渋滞の解消、大量通過交通による地域環境への影響の軽減を図るため、拡幅整備、交差点改良などの整備を促進します。

<西毛広域幹線道路の整備>

西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）については、整備を促進し、高崎市・前橋市・富岡市などとの広域連携の強化を図ります。

<南北方向地域連絡幹線道路の整備>

「市役所・安中駅周辺地区」の都市拠点地区と秋間地区の安中榛名駅周辺市街地や各地区の集落地を河川や鉄道を越えて連絡する南北方向の県道などの幹線道路については、狭あい区間の拡幅、バイパス整備、交差点改良など、道路機能の拡充を促進します。

<旧中山道の地域生活道路、広域観光交流空間としての再整備>

安中宿、板鼻宿の歴史的街並みを有し地域商店街が形成されている旧中山道については、広域観光交流のルート・交流空間として、地域の生活を支援する近隣商業空間として、歩行空間の快適化、交通安全性の向上を図ります。

■ その他の道路整備 -----

<地区幹線道路・主要生活道路の整備>

各地区の市街地・集落を連絡する地区幹線道路や地区内の生活交通が集中する主要生活道路については、交通の円滑化、交通安全性の向上に向けて、交差点改良、歩行空間の改修・拡充を進めます。

特に、広域幹線道路の整備に伴い交通状況が変化する路線、学校通学路に指定された路線、災害時の避難路・救援路となる路線の改修整備を促進します。

<拠点地区などの歩行空間の整備>

都市拠点地区の主要な公共公益施設の周辺、広域観光交流ゾーンの観光交流ルートの沿道については、歩道の重点的な整備、段差解消などのバリアフリー化を推進します。

碓氷川・九十九川の沿岸道路や広域観光交流のルートとなる幹線道路については、沿道の環境整備や景観保全と併せて、自転車・歩行者道、自転車専用レーン、自転車専用道路の整備を進め、歩行者・自転車交通のネットワーク化を図ります。

⑤ 公共交通体系整備の方針

<安中駅の交通結節機能の強化・快適化>

乗降客数が多く都市の拠点駅であるJR信越本線安中駅については、駅周辺の交通広場、公共的駐車場などの交通結節機能を持つ施設の整備と地区の重要な公共公益施設と駅との連絡機能の強化を進めるとともに、重点的に駅施設の改修整備、バリアフリー化を促進し、鉄道利用の利便性・快適性を向上し、鉄道利用の増進を図ります。

＜鉄道と円滑に接続するバス路線・運行の検討・設定＞

J R 信越本線安中駅や J R 北陸新幹線安中榛名駅と市内各地域を効率よく連絡し、鉄道利用と円滑に接続する路線バス・乗合タクシーについては、路線・運行形態を検討し、拠点駅安中駅を中核とした総合的な公共交通体系の拡充を図ります。

⑥ 公園・緑地の整備の方針

＜スポーツ施設の連携・役割分担を考慮した公園施設の機能更新、長寿命化＞

碓氷川・九十九川の沿岸に連なる西毛総合運動公園、米山公園、ひさよし緑地と安中市スポーツセンター、碓東緑地などの公園施設・スポーツ施設については、施設間の連携、役割分担と施設の老朽化を考慮しつつ、市民の利用需要に応える効果的な施設機能の更新と長寿命化による効率的な施設維持管理を進めます。また、各施設を結ぶ碓氷川・九十九川に沿った自転車通行空間やジョギングコースの拡充などにより、親水性のある一体的なスポーツ・レクリエーションゾーンの形成を図ります。

＜自然環境を保全・活用する特色ある緑地の整備＞

地域の自然環境を体験・学習する場となっている「天神山自然の森」については、市民参加を促進して施設・環境の維持管理を進めるとともに、周辺斜面緑地の一体的な保全とアクセス道路の整備により、緑地の機能を拡充し利用の増進を図ります。

＜防災機能・観光交流機能を持つ公園・緑地・広場の整備＞

旧中山道沿道の「安中宿」「板鼻宿」の市街地については、施設跡地や空き地の活用などにより、観光交流の場となり、まちなか居住に潤いをもたらすポケットパーク・広場の整備を推進します。

河川洪水災害時の避難などの経路確保が困難な地区や、震災時に延焼危険のある地区などについては、避難場所や資機材の備蓄倉庫などの地域防災の機能を有する多目的な公園・緑地・広場の整備を推進します。

⑦ 河川及び供給処理施設の整備の方針

＜河川治水対策・改修整備の促進＞

流域の大量降雨時に予測される河川洪水による浸水被害を防止するため、治水対策としての河川施設の維持管理を促進します。

＜親水空間としての河川敷の整備・活用＞

市街地に隣接して一定の広がりを持つ碓氷川・九十九川の河川敷については、河川の治水機能との整合を図りつつ、親水性のある公園・緑地・広場の整備・維持管理、沿岸管理用道路の歩行空間・自転車通行空間の機能の拡充整備を進めます。

＜公共下水道事業の推進と下水道加入の促進＞

利根川上流流域関連公共下水道の事業認可区域については、事業を推進するとともに、整備事業済区域における下水道加入による水洗化を促進します。

碓氷川左岸の公共下水道事業認可区域の事業実施状況、事業効果を勘案して事業計画を見直し、必要に応じて、碓氷川右岸へ事業区域を広げて市街地の下水道の普及率を高め、地域の生活環境の向上と公共用水域の水質保全を図ります。

⑧ 都市環境の管理・整備の方針

＜市街地の施設内、宅地内の緑化の促進＞

市街地の道路整備や公共公益施設の整備、改修に際して施設内の緑化を推進するとともに、生け垣の奨励に関する補助制度や建築協定などのルールの適用により、宅地内の樹木・樹林の保全や緑化を促進します。

＜環境悪化の要因となる空き地などの適正管理の促進＞

ごみの不法投棄の対象となる恐れの高い空き地や耕作放棄地については、土地利用の規制誘導などにより土地利用の転換・活用と適正管理を促進します。

空き家については、「空き家対策」を検討し、対策措置を講じて、周辺環境悪化を防止します。

＜合併処理浄化槽の設置の促進による河川環境の汚濁防止の推進＞

公共下水道などの汚水集中処理の事業区域外については、合併処理浄化槽の設置を支援し、生活雑排水による河川環境の汚濁の防止に努めます。

⑨ 都市景観形成の方針

＜歴史的街並み景観の保全・活用＞

旧中山道沿道の歴史的街並みや建造物を有する広域観光交流ゾーン「安中宿・安中城址周辺ゾーン」については、広域観光交流の資源となる特色ある街並み景観の保全・活用を図ります。

＜山並みなどの眺望の確保＞

妙義山などの美しい山並みや河岸段丘斜面の緑地の眺望、景観を保全するため、市街地において建物の高さを制限する「高度地区」の指定や、主要な斜面緑地への「地域制緑地」の指定を検討します。

＜幹線道路などの沿道景観の整序＞

良好な街並み景観、幹線道路沿道景観を実現するため、県屋外広告物条例の適切な運用を図り、景観を阻害する屋外広告物を制限します。

西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）沿道において計画的に開発整備される沿道地区については、地区計画などのルールの適用により、良好な沿道景観が形成されるよう建築物の形態・意匠を誘導します。

⑩ 都市防災の方針

<地区ごとの特性に即した身近な防災拠点の確保>

市内河川の最下流域に位置し河川洪水による浸水の恐れのある市街地があること、地形の高低差や河川・鉄道などの災害時の避難・救援活動の障害要因が多いことなどの地域の特性を考慮し、小規模な自主防災組織ごとの身近な防災拠点とすることのできる公園・緑地・広場や公共公益施設の配置整備を推進します。

<市街地建築物の耐震化、不燃化>

災害時に避難・救援活動の拠点となる公共公益施設などについては、耐震化を推進し、防災機能を確保します。

比較的建築物の密度が高く、出火の危険性の高い施設が多い都市拠点地区の市街地については、防火地域・準防火地域の指定やブロック塀の生け垣化の促進などにより市街地の防災性の向上を図ります。

◆「安中・秋間地域」地域整備構想図

～ 広域に開かれ、人々が生き生きと行き交うまち ～

